



会員寄稿

凡 事 徹 底

～努力を習慣に変える～

第1学年主任 中川 和彦

1年生158名を大洲高校に迎え、早2か月が過ぎようとしています。薄桃色の花が入学式に彩りを添えてくれた校内の桜の木に、今は深みを増した緑葉が生茂り、季節の確かな変化を見て取ることができます。本年度は学年テーマとして「凡事徹底 ～努力を習慣に変える～」を掲げてスタートしましたが、新型コロナウイルスの影響で集団宿泊研修等の学校行事をはじめ、部活動や授業までもが予定通りに実施できない事態となりました。先行き不透明な状況ではありますが、生徒一人ひとりが将来の姿をイメージしながら、誰もができる簡単なことを徹底して行えるように、折に触れて「続けることの大切さ」を伝えていこうと思っています。

さて話は変わりますが、フランスのある哲学者の言葉に「食欲は食べているうちに出てくる」というものがあります。「お腹はすいていなかったのに、また食べ過ぎてしまった...」という経験は、誰もがお持ちではないでしょうか。これは食欲に限らず様々なことに当てはまりますが、私に関してはランニングがそれに当たります。ここ20年間ほど花粉症の影響で運動をすることがほとんどなくなっていました。今年は随分症状が緩和されたので、時間を見つけて体を動かすようにしています。すると、初めは5分走るだけでも息が上がっていたのですが、最近は無理をしなければ1時間ほど続けて走ることができるようになりました。努力しなければ走れなかった5分がいつの間にか平気になり、その時間が10分、20分と伸びていくにつれて、「もう少し続けて走ってみよう」という意欲が出始めました。走る回数も自然と増え、今まさに、努力が習慣に変わりつつある段階です。

自分に向いていることや夢中になれることは、じっと待っているだけではなかなか見つかりません。経験上、やってみて初めて面白さや奥深さに気付く、やる気が出てくるケースが多いように思います。1年生には、新たな環境での新たな仲間との出会いが、新しい自分に気付いたり、新しいことを始めたりするきっかけになることを願っています。そのためにも、自分から挨拶するなど、やろうと思えば誰にでもできる簡単なことを継続し、積極的に仲間の輪を広げてみてはどうでしょうか。

